

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立川口工業高等学校 (定時制))

目指す学校像	工業技術の基礎・基本を学び、ものづくりの心を育てる楽しく明るい学校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 授業内容や教材等を工夫し、基礎学力の充実を図る 2 個々に応じた勤労意識の育成とキャリア教育を充実させる 3 規律ある態度を育成する 4 地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 2 6 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 2 6 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	① 登校状況・授業への参加意欲は徐々に向上しているが、普通教科の基礎学力が不足、基礎学力を向上させ、主体的な学びの態度を育成することが課題である。 ② 専門教育をさらに充実させ、将来ものづくりに携わりたいと考える生徒を増やしていく必要がある。	基礎学力を向上させ、専門教育のさらなる授業改善を行う。	① 1年次の普通教科の指導では学習サポート制度等を活用して個別指導を充実させ、基礎学力を向上させる。 ② ものづくりの楽しさを実感できるような授業改善を行い学習意欲向上につなげる。	① 授業への参加意欲が高まった生徒の割合 ② 工業関係の仕事に就きたい生徒の割合	学校生活や授業においては落ち着いた状況である。特に学年が上がるにつれて成長が見られる。しかし、高い学習意欲を持ち家庭学習等を積極的にを行う生徒は少数である。 ①参加意欲が高まった生徒は46.1% (前年度比-15.1p) ②ものづくりに関わる仕事に就きたい生徒は44.9% (前年度比-13.8p)	B	両項目とも減少してしまったため継続的な課題である。 ①入学者の質的变化に対応するため、授業内容については継続的な改善を行う。授業規律確保についても教員間の共通理解を促進させる。 ②埼玉研事業への参加等が活発に行われた。工業技術を学ぶ意義や面白さを授業内容に反映させることが課題である。
2	① 入れる学校として入学してくる生徒も多く、毎年1割以上の生徒が中途退学となる。進路意識を高めて中途退学者を減少させることが課題である。 ② 卒業生のうち進路未定者が少なからず存在する。在学中に進路希望を明確にさせ、進路未定者を減少させる必要がある。	国や県の事業を活用し、キャリア教育・進路行事の定着を図るとともに枠組みを構築する。	① 自立支援事業を効果的に活用しキャリア教育・進路行事を通して生徒の将来への展望を育む。 ② 就職支援アドバイザー活用やハローワークとの連携により個別指導を行い、進路意識を向上させる。	① 進路希望未確定者の割合及び中途退学者の割合 ② 4年次生徒の内定者の割合と系統的な進路指導の取組	自立支援事業等を活用し、キャリア教育、進路指導等を含めた将来設計の指導を重点的に行った。 ①進路未確定者の割合は33.3% (前年度比10.6p減少) ②今年度、学校斡旋による就職希望者は全員進路実現することができた。(100%)	A	課題は継続される。 ① 1月までに10件の学校見学があった。本校志願者の確保について産業教育フェア等を活用して周知したが、さらにPRを推進することが課題である。 ②10年後や20年後の自分の生き方を考えさせる教育が必要である。キャリア教育・進路行事を定着させ、生徒の意識を向上させることが課題である。
3	① 欠席の多い生徒に早い段階で対応し長期化を防ぎ、進級・卒業に向けて努力させる。 ② 生徒指導上の大きな問題は減少している。生徒の学校への意欲・規範意識向上のため生徒会行事や部活動への積極的参加を促す。	学校への帰属意識を高め、自律・自立の気持ちや態度を育成し、規範意識を向上させる。	① 欠席の多い生徒については家庭状況も把握して情報共有を図り、校内外の組織・機関と連携しながら支援を行う。 ② 積極的な生徒会行事や部活動の参画意欲を醸成し、学校への帰属意識を高める。	① 長期欠席生徒の割合 ② 学校行事への参加意識の向上と全部活動の活動のべ日数及び部活動参加率の割合	欠席過多により未履修科目を持つ生徒は大幅に減った。また、学校行事への参加意識も良好である。 ① 在籍する生徒で欠席30日以上の子は7.2%。転退学者の数は減少している。 ② 部活動への参加率は38.5%。柔道部は3年連続全国大会出場。	A	課題は継続される。 ① 欠時数過多により未履修となる生徒は大幅減。遅刻者減少の対応は今後の課題である。 ② 生徒会や学校全体の行事の充実もあり、学年を越えた交流が活発である。
4	①保護者や地域に対し、さらに情報を発信し、家庭や地域と連携する学校づくりをすることが課題である。 ②入学志願者が減少傾向にある。本校の特色を広報し、志願者を増やす必要がある。	本校の情報を発信し、本校に対する保護者や地域の理解を高める。	① 本校教育活動を周知するため学校公開や学校ホームページの随時更新を行う。 ② 本校教育活動を周知するため、産業教育フェアなどのイベントに積極的に参加する。	① 学校公開への参加者数及びホームページ更新数 ② 公開行事やイベント、外部機関との連携回数	各家庭との連携が緊密に取れていると感じる反面、なかなか連絡の取りづらいケースも見られる。 ① 適時適切なHP更新を行うことができた。 ② 県教委が開催する産業教育フェアの学校紹介展示及びライントレースカー競技会に参加することができた。	A	子供を本校に入学させてよかったと感じている保護者は93.4%。 ① HP更新はさかんに行われた。また、学校生活や緊急対応等も充実している。 ② 生徒の学習成果や活動中の姿を外部に直接発信することができた。本校の良いところさらにPRすることが課題である。

学校関係者評価
実施日 平成30年3月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の取組が今の時点で不足しているとは考えていませんが、多様な生徒に対応していく必要があると考える。ぜひ生徒や保護者からの意見を聞き、より良い形で学校運営に反映させてほしいと思う。 ・遅刻に関しては一部の生徒に多く発生している。生徒側の生活改善も必要なのではないか。 ・授業に関しては教員がどのように生徒と向き合うか、生徒がそれをどのように受け止めるのか今後も継続して検討が必要。 ・ネットの普及や情報過多の社会構造にシフトする中で、自分自身で考えて進路選択しなければならず、将来に不安を感じる子も多いと思う。授業の中で体験的な活動や資格取得などを推進し、生徒の考える力の育成や自信をつける指導に期待する。 ・就職支援アドバイザーを取り入れた進路指導は非常に効果的であった。引き続き、外部の教育力を取り入れた進路指導をお願いしたい。 ・学校側からの積極的な情報提供や緊密な連携で、保護者はある程度学校での状況を把握できていると考える。欠席時や成績に関する連絡も迅速で信頼を十分醸成できているのではないかと考える。生徒は精神的に急速に成長する時期なので、ぜひこのような指導を継続し生徒の健全育成を行ってほしい。 ・部活動への参加意欲を高めるためにどうしたらよいか、引き続き学校と相談し進めたい。 ・定時制への入学者が減少している状況は報道等でも目にしている。しかし、本校に限って言えば、在籍生徒に対するきめ細かい指導はメリットの一つであり成果も上がっている。HP等で転編入試験等の告知も行っており、入学や転編入希望者が増えるようさらに本校工業技術科をよく知ってもらい取り組みを実践してほしい。 ・地域行事への参加など地域とのかかわりを増やした方が良いのではないか。 ・工業技術科の内容を知ってもらうため、体験入学などをやったらどうか。